

# 大切な人の体に 女性ホルモンがすること

女性ホルモンの話です。

お読みになるのが男性でしたら、

身近な女性が不安に思っているときの参考にさせていただけたら幸いです。



産婦人科副部長  
**濱井 葉子**  
[専門領域]  
周産期・腫瘍全般  
[主な資格]  
日本産婦人科学会専門医

## 10代

私が若い頃、初潮は中学生～高校生時代でした。しかし、最近では小学生高学年で月経が始まることも多く、中学に上がって月経が来ないと心配で来院される親子もいます。

その場合、経腹超音波（痛みはありません）で子宮や卵巣を確認したり、腔内に月経血が貯留していないか見ています。高校卒業までに月経が来ない場合は、血液検査や内診（腔からの診察）も行っていきます。

## 月経開始～40代前半

月経不順で来院されることがあります。不順の程度がひどかったり、妊娠を希望している場合は、薬物治療を行う場合があります。

順調に女性ホルモンが分泌されている場合は排卵が起きますので、その頃に腹痛が生じたり、中間期出血と呼ばれる出血が生じる場合があります。排卵期やその少し後に性交を行った後に腹部に激痛が生じたら、卵巣から出血している可能性があります。

また、排卵後に分泌される黄体ホルモンの影響で、むくんだり、いらいらする場合があります。月経10日前～直前のみ体調が悪くなる月経前症候群と呼ばれるもので、生活に支障が出るほどの場合は、低用量ピルで治療することがあります。

## 40代後半～50代前半

いわゆる更年期で、月経が不順になったり、体調が変化する場合があります。この時期に注意が必要なのは、不正出血を更年期だからと思い込んで子宮や卵巣の病気を見逃したり、頭痛・動悸（どうぎ）・耳鳴り・気分の落ち込みなどを更年期障害と思い込んで、脳外科・整形外科・循環器科・耳鼻科・精神科の病気を見逃すことです。

更年期障害は最後に残る診断ですので、症状に合った複数の科を受診することが大事です。

閉経して時間がたつと、骨盤を支えている筋肉が緩んでくるために、子宮や腔壁が下がる感覚を持つ方が増えます。程度によって、経過観察・外来でできる器具挿入・手術と、対応が分かれます。

産婦人科は受診にくい面もあるかと思いますが、

心配なことがありましたら自己判断や様子を見ることを避けて、まずは診察を受けることをおすすめします。